

お好み焼きの魅力

一年二組

バイン まいる

お好み焼きの上にかけるお好みソースを作

つている、オタフクの広島工場を見学しまし

た。

これまでに製造されたソースの種類を見せ

てもう、た時、その数の多さに驚きました。

アメリカのスパイでは、一種類か二種類し

か見たことがなかったの、二千種類のソ

スが食べる人の好みや用途に合わせて作られ

ていることに感動しました。例えば、離乳食

を終えたばかりの子供でも食べられるソ

や、宗教上食べられない食材を使っている

ソースもあって、日本以外の人が使える商

品もありました。

工場見学の途中で、お好み焼きの由来も知

りました。広島お好み焼きは第二次世界

大戦直後に誕生したと言われている。原子

爆弾を落とされてすぐになくしてしまっ

た。広島市民たちは手に入りやすい具材、小麦

とも	中	発	い	好	た	使	き	あ	た	を	家	店	ふ	で	う	粉
も	で	明	、	み	の	っ	ま	っ	と	込	族	か	み	次	た	や
に	も	だ	上	焼	で	て	し	て	い	め	が	多	ち	々	め	者
、	、	と	品	き	大	何	た	、	う	こ	、	く	や	と	い	、
広	前	思	な	は	変	度	。野	場	こ	を	い	、	ん	開	お	キ
ま	向	い	味	、	じ	も	菜	所	と	つ	か	、	な	店	好	ャ
っ	ま	ま	が	い	し	ひ	と	を	お	の	帰	、	ど	し	み	ハ
て	に	し	し	つ	た	く	ふ	使	好	そ	っ	原	っ	た	焼	ツ
い	な	た	ま	も	か	り	た	い	み	れ	て	爆	、	店	き	な
っ	え	。戦	し	お	、	返	肉	分	焼	、	来	で	、	は	を	ど
た	る	後の	た	好	出	さ	を	け	き	る	よ	行	み	作	り	で
と	よ	の	。戦	み	来	な	の	て	の	う	に	方	っ	り	始	人
い	う	悲	後	焼	上	い	せ	、	作	に	と	不	み	め	々	
う	に	さ	の	き	が	と	た	生	り	の	願	明	っ	ま	に	
マ	と	ん	時	と	っ	い	後	地	方	お	い	に	ち	し	喜	
に	い	な	代	は	た	け	は	や	を	店	な	や	ん	ん		
感	う	時	の	違	広	な	へ	め	休	の	っ	ん	、	た		
動	願	代	の	違	島	か	ラ	ん	馬	番	の	っ	。広			
し	い	の	の	違	風	か	を	を	し	板	願	や	島			
ま	と	の	の	違	お	か	焼	焼	ま	に	い	っ	、			

(20×20)

した。手作りのお好み焼きでお腹がいっぱいになりました。こ、お好み焼きの由来に胸もいっぱいになりました。

(20×20)

私は誰？これは私が毎日問ってきた大きな問いの一つだ。そして十六年生きた今でも、その答えは未だに分からない。私は知っている。ちゃんとした答えは一生見つからないかもしれないことを。そして少しずつ欠けらを見つけ、少しずつ組み立てるしかないことも。それでも私は知りたい。そしてその答えにできるだけ近づきたいのだ。だが、こう思うだけではだめ。高校生活も後半になり、進路についてももう少し明確にしなくてはならない時期にきたから。

小学の頃から、「大学に入るためにいろんなことをしなきゃいけない」と言われてきた。それは多分そうなのだろう。そして、「私はこれをしたい」「これを目指したい」と言ったものはどんなに考えても適切なものは見つからなかった。私は元々何かを決めることが苦手だ。私は「どの教科が好き？」と聞かれても、「数学は少し苦手だけど同じくらい好き」と曖昧な答え方をする。そんな私が急に「あなたは将来何したい？」「将来どんな仕事をしたいの？」と聞かれても「分からない」と答えてしまう。精一杯考えても、数学をあまり使わず、想像力を使い、動物関係、何かの作家か音楽関係がいいかなというところまでしかない。まだぴったりのものが分からない。自分が何かを見て、「これを一生やりたい」と思えるようなものは見つかっていない。そして十六歳になった今でも、それは変わっていない。そして大学に入ろうとしなければいけないのも変わらない。

時間が迫っており、特に最近はお母さんに「何かしなさいよ」と言われてくるのだ。それは私が本当に何もしていないわけではない。現地校ではオーケストラに入っているし、補習校以外にはピアノのプライベートレッスンや日本習字だってやっている。だが、お母さんは自分が興味あることをもっとやってほしいと言う。言い換えると、将来に向けて何かしなさいという意味だ。だが何年も考えても分からなかったことが急にパッと分かることは、私には無理だろう。私だって知りたい。私だって自分のことを誰よりも理解したい。自分が将来何かが簡単に分かったらもうその未来の夢に向かうのに夢中だろう。そして自分の一部を見つけられて、自分のことをもっと知れたその時は、きっとその将来の夢をかなえることよりもうれしいと思うだろう。それだけ自分をもっと知ることが大切なのである。だが、まだ自分のその一部が見つかっていない私は、今どうしていいか分からない。

自分の将来を選ばなければならない時が近づくのと同じく、もう将来を決めた人が自分の周りにいる。人が自分の夢を追うことはとても素敵だ。だが、まだ自分の将来が見えない私には、どんどん置いて行かれるような、皆から取り残されていくような気がする。本当はそ

うではないかもしれないが、そう感じてしまうのだ。私から何かしたいといわないので、親は友達や同じ年齢の人と比べられるようになった。それはとても嫌なこと。その人達はあなたよりすごいんだよと言われるのは誰でも嫌だ。だがそれはそうなのだろう。どの道を選ぶかを迷い続ける私より、もう道を選びどんどん旅経つ人の方が私の何倍もすごいのだろう。そうではなくて、私が他の人に比べられるのが嫌なのは、「その人達もあなたを置いていくんだよ」と言われているみたいだからだ。早く自分を探さないと皆が私を置いていく。それが多分今の私にとって一番嫌なことだと思う。そしてたまに、自分がどうかしているのかとも思ってしまう。これは未来が怖いからこう思っているのか、このまま何も変わってほしくないと思うからなのか、それとも自分のしたいことが分からない悔しさかは今でも私にとっても謎なのだ。

私が今、一番欲しいものは二つある。その一つは共感してくれる人。今は自分の周りには共感している人が見当たらない。「皆私を置いていく」がだんだん「皆私と違う」というように変わっていったら気がしている。本当の本当に一人ぼっちは誰も嫌だと思う。だから「一人じゃないよ」と言ってくれる人がほしい。だが共感してくれる人だけではこの先から前へは進めない。だから行かなくてはならない方向に背中をポン通してくれる人も欲しい。確かに行き先を選ぶことは自分自身でしかできないことだろう。だがその選び方を教えてくれるような、そのあの将来を持つ自分の一部に近づけるやり方を教えてくれるような人も必要なのだ。正直に言うと私には分からない。こんな気持ちを理解できる人がいるのか、それとも私の周りの人も皆こう思ったことがあるのか。こんな風においていかれる感じは私以外に感じたことあるのか。私は今こんなにも迷っている自分のしたいことや夢の仕事を知る日が来るのか。こんな質問だらけで生きる私、大丈夫？ここから一步踏み出すきっかけを私は今日も探している。